

# 営農ウィークリーNEWS

注意!!!

## 奈良県でトビイロウンカ発生を確認!



### 昨年の被害の様子



5月26日、奈良県では、奈良県病害虫防除所より、トビイロウンカの発生が確認されたとして、県内全域に発生予察注意報が発表されました。

猛威を振るった昨年よりも確認が1カ月も早く、さらに発生量も多いとのこと。

京都府内での発表はありませんが、隣接する県での発生ですので注意が必要です。

これから晩生品種については、田植えの時期を迎えますが、田植え時に効果の長い薬剤処理をおすすめします。

すでに田植えを終えたところは、今後、京都府病害虫防除所からの予察情報に注意してください。

どちらにせよ、8月以降は、圃場に入り稲株元にトビイロウンカの発生がないか確認することが大切です。

### トビイロウンカによる坪枯れ被害



株元を注意して観察して下さい!



防除の目安は、株当り成幼虫が5頭以上です。



### TAC information

## フルスロツトル®

箱粒剤

!!!  
TAC



昨年、管内で猛威を振るい多くの坪枯れ被害を発生させたトビイロウンカ。トビイロウンカは、6~7月に海外から飛来し、日本で世代交代を繰り返し9~10月には坪枯れ被害を発生させるほどに増殖します。数が増えてからや、坪枯れ被害が発生してからの防除はとて難しく、なかなか思ったような効果が出ません。

お隣の奈良県ではすでに発生が確認されています!!!

ウンカ防除では、増殖させないことが大切です!そこで、JAからは「フルスロツトル箱粒剤」をおすすめします!ウンカによく効く新規有効成分が長く残効し、ウンカの増殖を抑制することで、坪枯れ被害を抑えます!

2021年産米は、「フルスロツトル箱粒剤」でトビイロウンカ被害を防ぎましょう!!!



# すでに、西日本各地でウンカの発生が確認されています。2021年産においても、注意が必要です！



## ウシカ今年も警戒 西日本既に6府県で確認

水稲を枯らす害虫トビイロウンカが、西日本を中心に相次いで発生している。農水省によると、今シーズンは既に静岡、大阪、奈良、徳島、福岡、佐賀の6府県で確認。例年よりも早い時期での確認が続いており、深刻な被害に見舞われた昨年と同様の傾向だ。梅雨入りが始まったことが背景にあるとみられ、関係者は警戒を強めている。

トビイロウンカは体長3〜5mmほどの害虫で、茎から水分や養分を吸い取って稲を弱らせる。被害が広がることで、稲がまとまって枯れる「坪枯れ」を起す。梅雨期に大陸から日本列島に吹き込む風に乗って、中国などから飛来する。大抵、飛来する前に被害が現れる。例年よりも早い時期での確認が続いており、深刻な被害に見舞われた昨年と同様の傾向だ。梅雨入りが始まったことが背景にあるとみられ、関係者は警戒を強めている。

トビイロウンカは体長3〜5mmほどの害虫で、茎から水分や養分を吸い取って稲を弱らせる。被害が広がることで、稲がまとまって枯れる「坪枯れ」を起す。梅雨期に大陸から日本列島に吹き込む風に乗って、中国などから飛来する。大抵、飛来する前に被害が現れる。例年よりも早い時期での確認が続いており、深刻な被害に見舞われた昨年と同様の傾向だ。梅雨入りが始まったことが背景にあるとみられ、関係者は警戒を強めている。

## ウシカ発生を確認

### 奈良県病害虫防除所が注意報 1948年以降最も早く

奈良県病害虫防除所は26日、水稲を枯らす害虫トビイロウンカの発生を確認されたとして、県内全域に発生予察注意報を発表した。猛威を振るった昨年よりも確認が1カ月も早く発生量も多いため、防除の徹底を呼び掛けている。県内で5月に発生が確認されたのは1948年以降初めて。

今年17日から20日にかけて、桜井市内でトビイロウンカが断続的に確認された。同防除所は「これほど早く発生が確認されるのは過去に例がない」と危機感をあらわにする。同防除所によると、既に田植えを終えたものの、田植え時に薬剤を処理していない場合は、6月中旬に圃場（ほじょう）に薬剤を散布する必要がある。これから田植えを行う場合は、田植え時により効果の長い薬剤を処方するよう求める。

トビイロウンカは体長3〜5mmほどで、梅雨時期に中国などから風に乗って飛来する。茎に管を突き刺し水分や養分を吸い取って、稲を弱らせるのが特徴。稲が円形にまとまって枯れる「坪枯れ」を引き起こす。昨年は西日本を中心に被害が多発。奈良県では、作況指数が92の「不良」に落ち込む主因となった。

2021年5月27日  
日本農業新聞

## トビイロウンカ初確認

### 大阪府が過去20年で最も早く 防除情報

大阪府は27日、水稲を枯らす害虫トビイロウンカが今シーズン初めて確認されたとして、防除対策の徹底を呼び掛ける通知を出した。府によると、過去20年で最も早い時期での確認という。

今日午後16時、朝にかけて、岸和田市内で確認された。トビイロウンカは体長3〜5mmほどの害虫で、茎から水分や養分を吸い取って稲を弱らせる。数が増えると、稲がまとまって枯れる「坪枯れ」を引き起こす。梅雨期に大陸から日本列島に吹き込む風に乗って、中国などから飛来するのが特徴。3カ月ほどかけて増殖し、収穫期までに被害が顕在化する。被害を食い止めるためには、適切な防除対策を講じる必要がある。対策は、①田植え前の育苗箱への農薬散布②田植え後の水田への農薬散布の2つが有効だ。

昨年度は、西日本を中心に被害が多発。作況指数は近畿が96、中国が92、四国が96、九州が89で、作柄が落ち込む一因となった。飛来時期が早かった上、飛来量が多く、8月以降、増殖していったことが原因とみられる。

## 金井正嗣

【京都・やましろ】JA京都やましろは28日、JA京都やましろの豊秀養蚕を営む金井正嗣さん(28日、京都府京田辺市)で、トビイロウンカによる水稲被害は同県でも2019年、20年と2年連続で確認されている。

JA京都やましろは、同防除所によると、県内5カ所に設置された予察灯では今のところ、トビイロウンカの誘殺は確認されていない。だが、近隣府県では誘殺が確認されている。中国大陸からトビイロウンカを運ぶ下層ジェット気流が5月中旬、下旬に滋賀県にも届いており、飛来している恐れがあるという。今後の状況次第では、圃場（ほじょう）を、圃場（ほじょう）

## 近畿北陸

情報は大阪支所か府県JA中央会、JAへ  
大阪支所  
〒530-0047 大阪市北区西天満1/2ノ5  
TEL 06(6314)0025  
FAX 06(6367)9562

今日の天気

滋賀	10	0	10
大津	26	0	18
彦根	20	0	10
彦根	25	0	19